

さくら第532号

令和 6年4月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7: Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『見る・観る・視る・看る・診る…』

珠算の検定試験や競技大会では乗算、除算、見取算、見取暗算の4種目が一般的です。そろばんについて全く知らない人たちからすれば、乗算と除算はどのような種目かは何となく理解できますが、見取算となればその内容が不明という人がいます。

もし、加減算と表記されると足し算と引き算の問題だろうと推測されますが、検定試験の制度がつくられた昭和19年当時から、見取算、見取暗算となっています。

辞書には「見取り算」は、そろばんで数字を見ながら計算することとなっています。

さて、毎回の検定試験で不合格になるのは見取算の成績が悪いからが大半であり、ふだんの練習でいかにしてミスを少なくするかであり、ミスの原因は何かを自分でしっかり意識し、練習に反映することが大事です。

では、どのような時に間違えるのかを思い起してください。計算方法、指使いでは、 $12-4=6$ になる時です。これは、4を引く時に10になる補数の6を足さずに4をそのまま足してしまうからです。引き算でミスするという事は割算は引き算だから同じような間違いをして、割り切れないと何度もやり直すことが多いです。

2番目に多いのが、引き算を足してしまう時で、引き算が2つ続くと3つ目もうっかりして引いてしまうからです。

次に多いのが答えを書く時に、1の位が「0」の時に見落としてしまい、1桁少なくなる時。また、2級からは補数計算、マイナスになる答をそのままプラスで書く時です。さらに、マイナス

記号「-」の書き忘れもあります。

そして多いのが、最後の数が「0」の時に書き忘れてしまい、答えが1桁少なくなる事であり、この防止策は記入する時にコンマを位どりにしたい書くことです。答えの数字を全部書いたあとにコンマを書くから忘れるのです。

よくあるミスでは、大きな桁数の次に小さな桁数があると飛ばしてしまう人が多くいます。さらに、一番最後の問題を全部飛ばしたり、中には最後の3ケタだけを飛ばす人もいます。

3月17日に全珠連検定試験が施行され、段位の審査会が午後1時から開始。全種目が再度審査され、合否が決まります。見取算でのミスが多く、上記のようなミスがあつて不合格、昇段できない人がいます。

見取算では、マイナス計算でのミスが特に多く受験者の30%余りが間違っています。加減算でのミスも多いです。それと共に目立つのが読めない数字、判読できない数字、0か9かが不明、8の数字は白い部分がなく特に下の部分がつぶれているのが多いのは、エンピツの芯が太くて細い線が書けないからです。

応用計算では加減乗除の計算順序が違うミス。100-1が89となるような初歩的間違い。

集中力、持続力が続かずまちがうという精神的ミスがあります。これらはふだんの練習で身につけるしかありません。

「みる」で辞書を引けば「見る」、「観る」、「視る」、「診る」、「看る」などがあります。「見る」は、目で物の形や色などをとらえること。特に意識することなく受動的といえます。

「観」は、意識して物を見るという能動的で、念を入れてよく見る、集中的にみわたすとあります。「視る」には注意してじっくりと目を向けるとあります。

「見取算」ではなく「観察算」とか「注視算」と名称を替えることより集中して数字と対応するのはと思います。ぼーっとしながらテレビを見るのと、意識を強くもって数字を観察しながら計算するのではその結果がちがうと思います。大事な事は気持ちの持ち方です。

春雨はるあめ
うつくしうなる
物ばかりもの
季語きご 春雨はるあめ
加賀千代女かがのちよよ